

<b>科目名</b>	美術			<b>担当教員</b>	永井 崇幸		
<b>学年</b>	1年	<b>学期</b>	通年	<b>履修条件</b>	必修	<b>単位数</b>	1
<b>分野</b>	一般	<b>授業形式</b>	実技	<b>科目番号</b>	08G01_20140	<b>単位区別</b>	履修単位
<b>学習目標</b>	写実描写、構想画、デザイン画などの絵画表現や鑑賞を通して、創造力を伸ばし、豊かな感性と心情を養う。言葉では表現できないことを感じる美意識を深める。						
<b>進め方</b>	相対するイメージを比較することでその本質を見定め、イメージを膨らませて自己の表現を追求させる。						
<b>履修条件</b>	特になし						
<b>学習内容</b>	<b>学習項目（時間数）</b>			<b>学習到達目標</b>			
	1. 鉛筆デッサン— ペンを持った手（2）			鉛筆で明暗をつけ、手の立体感と質感を表現する。2つの異なる物質を表現する際には、質感や大きさなどが相互に関わりあうことを知る。 E6:1			
	2. 記憶の絵地図（6） 着彩			自分がすごした幼児期・年少期を思い出し、他の人が見てわかりやすい表現をする。 B2:1  自宅周辺をあらゆる絵画表現方法を使って、分かりやすく楽しい絵地図として表現する。 B2:1			
	3. 構成と表現（12） （1）色彩の学習 （1）「楽しい」と「悲しい」の表現 着彩 （2）「寒い」と「暖かい」の表現 着彩 （3）「明るい」と「暗い」の表現 鉛筆描写、着彩			色の知覚・心理的効果を学習して、効果的な色彩表現を学ぶ。はみ出さないように着色できる。混色ができる。比較することで観念的でないイメージを膨らませる。 E6:1  形と色によって、言葉で表現できない表現が可能であることを認識する。 E6:1			
	4. 精密描写（10） 鉛筆デッサン、着彩			身近にある工業製品の精密描写を試みることで機能美、材質の特性、ロゴマーク、配色などを学習し、立体的な表現ができる。 B2:1  デッサンをして淡彩画の着色をする。 E6:1			
<b>評価方法</b>	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価（90%）（作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%）、制作態度（10%）を考慮して総合的に評価する。						
<b>学習・教育目標との関係</b>	(A)「社会と文化に理解を深め、他人の物の見方や考え方を知る。」 (B) 自らのイメージを豊かに膨らますことで、型に入らない新鮮な発想とそれを表現する手段を養うことは、未来を担う技術者の育成に重要である。						
<b>関連科目</b>	特になし。						
<b>教材</b>							
<b>備考</b>	自主的に美術館・ギャラリーなど鑑賞した際のレポートは、随時受け付けます。 スケッチブックと絵の具（アクリルガッシュ）を購入。（2年間使用）						